おおくま通報

大熊町＝2月現在＝
大熊町の人口…男3,864人 女3,880人　計 7,744人
世帯数……1,780
2月の出生数…男…10人 女…1人　計11人
2月の死亡数…男…4人 女…4人　計8人
発行編集　大熊町公民館
印刷所　平加納活版所

一里塚の由来記

相馬大膳亮利胤年譜、慶長九年二月四日の条に（注一六〇四）「秀忠公の命にて、東海道、越後海道に一里塚を築く、御家人是を奉行す。同年五月下旬に到って成就。

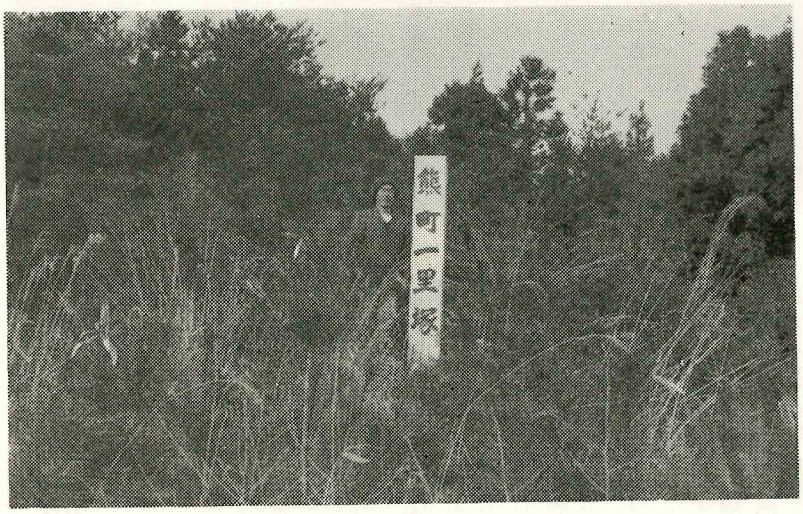
当地三郡海道一里塚此節これを築く。壱里の間三十六町とある。

また落穂集に、慶長九年二月四日、江戸より諸方への道筋に一里塚を築かしめたり。大久保石見守是を奉行す同年五月下旬悉く出来す。大久保石見守、一里塚の上に何にても木を植させてはと相伺へば一段然る可しとの仰付、何木を植させ申す可しと重ねて相伺へば、よい木を植させ候様にとの仰を石見守、榎を植えよとの仰と間違命令を出して榎を植られ候なり。とある。

日本史年表（歴史学研究会編）には、慶長九年八月、家康、江戸に帰る。この年幕府東海、東山、北陸の諸街道を修理し、一里塚を築く。と書いてある。

いずれにせよ、慶長九年に江戸（東京）日本橋を起点として一里塚を築いたという。旧浜街道筋には大熊町内に二ケ所、富岡町内に一ケ所、楢葉町内に一ケ所遺っている。

公民館の手によって三月四日標柱が樹てられた。



写真説明

○写真上は熊町一里塚

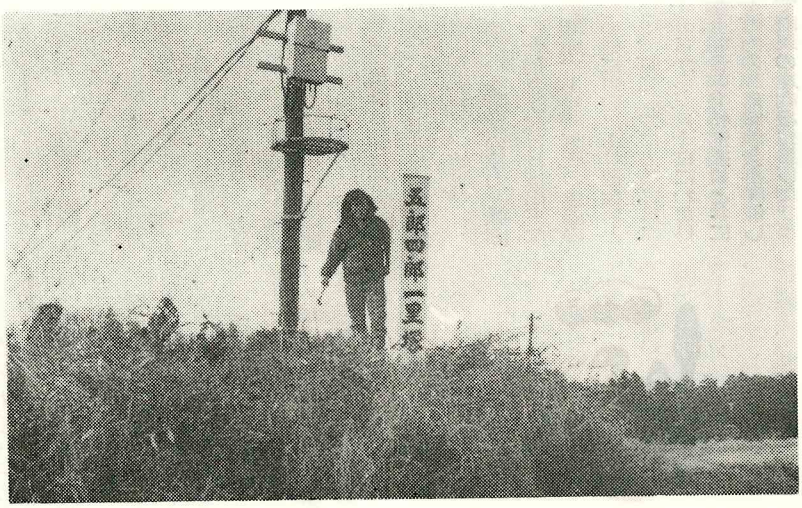
熊町一里塚は、旧九人坂（国見坂）の両側、今の六号国道を三角屋から南に走り熊川橋に下る坂の東側台端にある。昔の浜街道は現六号国道のすぐ東を西名清先生宅の西側を抜けて、現、川村広さん宅の東に通じていたという。

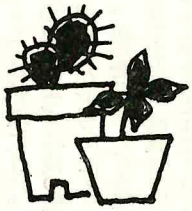
写真は旧道路東側中野栄宗氏所有地のもので、道路東側志賀昇氏所有地にあるものと対称に築かれている。

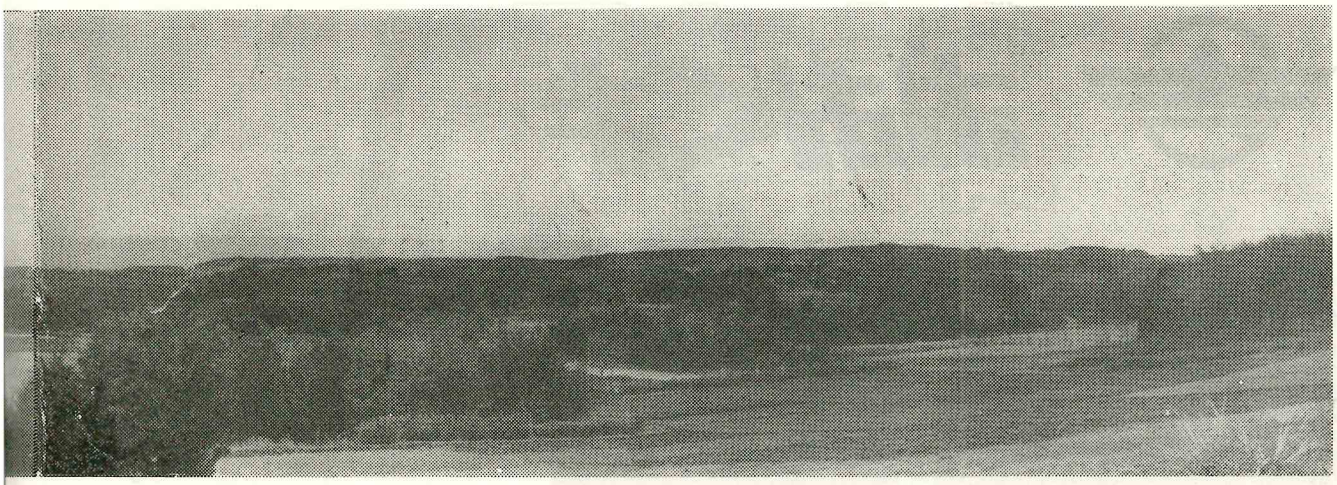
○写真下は五郎四郎一里塚

五郎四郎一里塚は、門馬義正氏宅西側旧国道両側にある道路東側は西後内沢（さごじいさわ）、西側のものは五郎四郎地内にある。写真は西側五郎四郎地内のもの、昔はこの塚の側に門馬氏の先祖の営む茶屋があったという。

留岡宿から熊駅の関門を越して相馬領内に入った旅人たちは、九人坂の一里塚から大和久の台地に入り、北大和久の札掛松の茶屋で一休みして五郎四郎一里塚への道を辿ったという。







沢海岸一南原一帯をのぞむ　＝昭和46年3月＝

農工一体化の方向を求めて

米の生産調整による町内の減反は三九万坪余に達し、農家の兼業率は八五％を上回る文字通りの農業転換期にさしかかって来た観がある。

町当局としても今後の地域開発の方向をどこに求めるかについては一大問題であるとして真剣な検討を続けており昭和四十五年十一月末、町議会内にも総合開発特別委員会が設けられ研究に研究を重ねてきた。

原子力発電所建設その他を軸とする地元労働力需用も昭和五十年頃までを境として減少する事を考えると、出稼ぎの激増という事態も起こり兼ねないし、これがために家庭問題、社会問題が惹起することも憂慮される。

ちなみに、昭和45年度の町内からの出稼ぎ人数は83人である。

農業由来日本の国土そのものが工業資源に乏しく、農耕地また狭小であって輸出農業としては成り立たない実情にあるとすれば、国民の教育水準がたかいことゝ、勤勉性をもとした科学技術の高度性を生かしての工業立国以外にないだろうし、農業もまた自給自足を主体とした農業として自己限定されるだろう。

こうして、町の研究もまた農工一体化を目途とする中規模工業団地造成の構想として浮かびあがりつゝある。

端的に、一流企業を町内に誘致し、各戸からこれに勤めることによって兼業農家としての確立を図ろうとするものである。

但し大熊町の場合、その立地条件からみて当然臨海工業の途を辿らざるを得ないし、近代一流企業は自らの港湾と専用埠頭を持つことによって資材と製品の輸送を海洋に頼る方向をとっているので海岸線を出来得れば二km、最小限にみて一・五kmを必要とするし工場敷地また内部にグリーンベルト（緑地帯）等を設けて公害予防と自然在置の方向をとるので少なくも一〇〇万坪程度を必要とする。

いわき市一帯の新産都市と相馬港を基地とする相馬一帯開発の中間に中規模工業団地を造成するというこの構想は県としても地元民がこれを望むなら全力応援を惜しまないという方向をとりつゝある。

しかし、この実現には幾多の問題がある。

第一に、予定敷地内に住む人々の移転の問題であるが、農家と土地の因果関係からみて簡単に割り切って移転出来るかどうか、更に新生活のための代替地を町内に求める問題

第二に、公害の問題。

現代は公害時代である。朝に夕に、公害問題が、新聞やテレビに出ない日は一日もない。大規模工業団地ではどうしても大なり小なりの公害はさけられないからとの発想であり、現在は国県はもとより市町村の公害防止条例と誘致企業の選択によって防止可能との見地に立っているが、地域民の公害に対する恐怖心もなかなか払拭出来ないものがあると思われる。等々。

事は、全町民の協力と確固とした信念がなければ出来ない問題であり。町民の意志のない処に町政はあり得ないとして、町当局では去る二月二十五日から三月十日にわたり議会総合開発特別委員と共に全町内の部落座談会を開催して町民の意向を打診した。

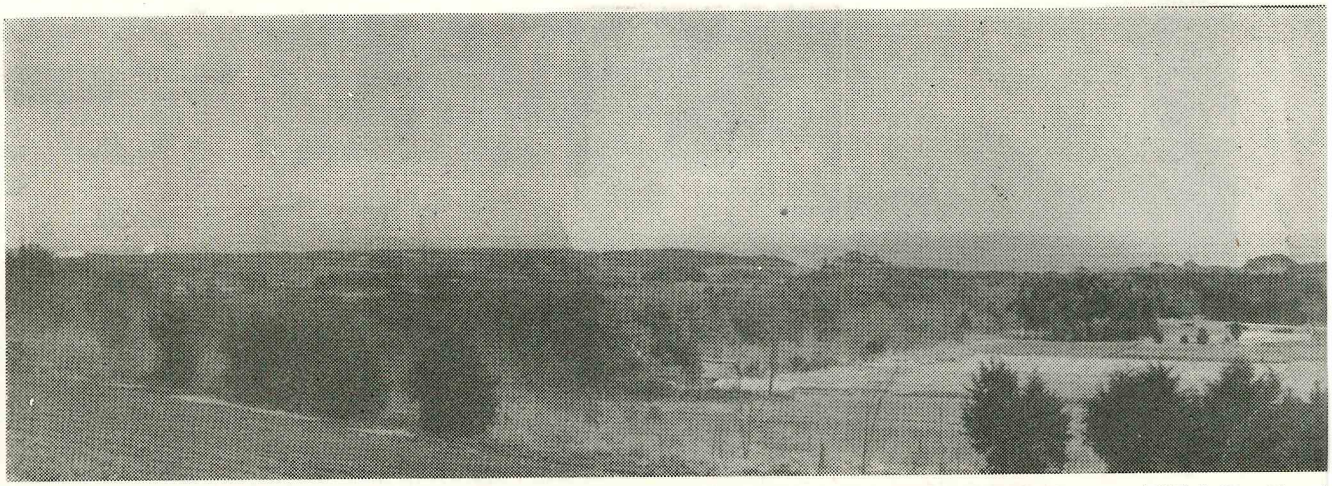
勿論まだ可否を速急に決定する段階でもなく、具体案が出来ている状況でもない。町民の意向によって今後の検討を進めるかどうかにすぎない。座談会に於いても各種の意見が出たが、純農村としての先行きを考えれば原則的には反対ではないが、今後各分野にわたり細密な検討を要するというのが大勢ではなかろうかと思われる。

地域開発の基本点は、地域民が幸福になれるかどうかにある。この地方に米作が始まり米作を中心とした開発が始まってから約一九七〇年。

歴史創まって以来の転換という課題を前にして町民一人一人が冷厳な気持と、前向きの姿勢に立って検討することが大切だと思うし。

改革には一大勇猛心が必要なことも歴史上の現実だと思われる。

文責　筆者



小入野、梨木平北方高地より原子力発電所一夫

町の声

減反に思う

今年は昨年の倍以上の減反が割当てられている。国家の政策である以上協力は覚悟しているが、農民の一人として何か割切れないものがある。

ひえだらけのたんぼが、もとの水田になるだろうか。何年も畑にしたたんぼが果して漏水しないだろうか。国家の補助のなくなった後一体どうなるだろうか。

こんな素朴な疑問ではあるが、農民にとっては深刻な問題である。草はぼうぼうでも金になるならよいではないかと割り切れないのが農民である。

だから余り人手を要しないある程度、金になる転作物がないものだろうか。更にタンボはもともと水のたまる所で育たない。排水に対する何らかの補助などもないだろうか

（一農民）

中学校の統合を急げ

この紙上でも何回か中学校統合の問題がとりあげられているが、一向に実現のメドがついていない。町当局、教育委員は一体どう考えているのだろうか。統合に反対する町民はいないはず。統合の仕方を具体的に研究すればよいのだ。統合にふみ切れない理由はどこにあるのだろう。

昔から大野、熊町は教育村として県下に範を示してきたはずなのに何とも心細い次第である。

戦後1/4世紀をへた現在に至っても統合できない現実は誠になげかわしい次第である。一日も早く統合にふみ切ってもらいたい。

（一保護者）

三森山公園の建設を

大熊町には公園は一つしかないの。三つあるよ。どこにあるの。大川原にあるの。わからないね。

ある日の会話である。Aは町営住宅に住む人。Bはこの昔の公園は小さな丘の上のみはらしのよい所にある。小学校一年生の遠足の場所であった。町民の憩いの場所としては余りにも小規模なものであり、今の社会人からは忘れられている。

それに比べて三森山には一万本の桜が植えられ、春には花が咲くと聞いている。

この雄大な三森山が公園として整備されたら、町民は勿論、都会人もどんなにか喜ぶことだろう。

この資源をもちながら、三森入口を知らない人も多いし道も悪い。少くとも入口に標識ぐらい建てたらどうだろう。また山の下まで自動車の入れる道路を整備する。駐車場もつくる。歩道をつくる。ちょっとした休憩所もつくる一度に全部がむつかしいなら年度計画でやってもよい。

夜の森公園は一朝にしてできたのではなく、数十年の年月を要しているはずだ。夜の森よりもずっとスケールの大きい自然公園三森の建設を望む。

（一町民）

一里塚の標識ができた

福島県下に六ケ所しか残っていないという一里塚が大熊町に二つもある。六号国道熊浜海道と、五郎四郎門馬氏の近くのものである。この二か所に標識が建てられた。

町民の中にはこの標識をみてはじめて一里塚とはこんなものかと認識された方もあろうかと思われる。地主中野氏志賀氏と門馬氏も満足されて、後世に残したいと考えられたと思う。

本町にはまだまだ多くの遺跡がある。夫沢熊の沢の前方後円墳（ひようたん塚）、棚和子の二個の円墳。夫沢の虚空蔵、野上日向の寺跡、主な古城趾、主な神社の社歴等、残したい文化遺跡は少くない。各地で開発の名の許に重要な文化遺産が破壊されている。わが町にある数少いこれら文化遺産の保存に何らかの対策を望む。

（文化愛好者）

役場に「すぐやる課」を設けて欲しい

町営住宅の住人です。ゴミ集めの車が来ないので、各戸ごと家の前に出しておくので風が吹くと散乱し、非常に汚ない。……

役場に「すぐやる課」を設けてほしい。

とにかくゴミの町ではこまる

（せいけつな男）

大熊町公民館

部落分館紹介

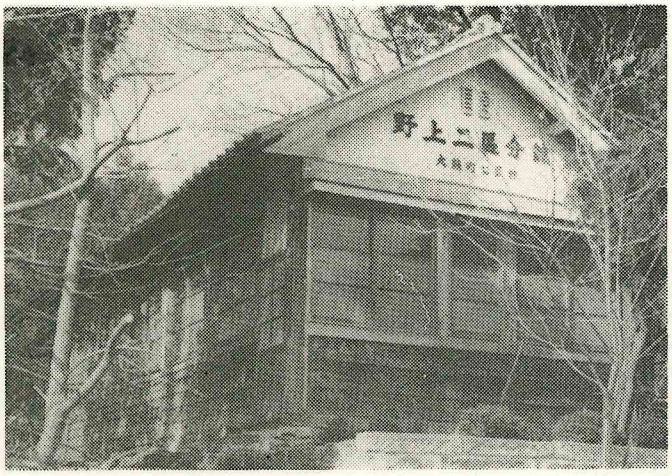
◈野上第二区部落公民館

・所在地
大字野上字山神前二〇番地

・設置及び施設
昭和三十二年一月一五日旧大野村役場古材を利用して改修、更に昭和四十四年に改築して現在に至った。木造平家建、二七坪で入口三坪の土間と、三〇帖の会議室と、六帖の台所、六坪の物置とからなる。畳三〇帖を敷きつめた会議室に二ケ所の炉があるのが特徴である。

・役員等
分館長　吉田茂宗（区長）
運営委員　井手昇、吉田和夫、小林登、吉田亨、渡部弘正

・利用状況
部落として月二回平均、年間二四回程度。



大熊町公民館野上二区分館

◈野上三区部落公民館。

・所在地
大字野上字下谷地二七四番地

・設置及び施設
昭和四十一年三月二十四日部落分館施設整備補助条例の第一回適用分館として落成した。
三坪の土間と、床ノ間付きの一六・五坪の会議室と一・五坪の台所と便所からなり建坪二一・五坪の木造平家建であり、会議室には二ケ所の炉がきられ、ウスベリが敷いてある。台所がちよっと狭いきらいがある。

・役員等
分館長　泉田佳衛
副分館長　武内幸二
運営委員　羽広義男、渡部ヒメヨ、槻林竹志

・利用状況
月四～五回、年間五〇回。

（写真は大熊町公民館野上三区分館）

大野婦人会総会

於公民館

3月5日、大熊町公民館に於て総会を開き45年度事業及び決算を承認し、46年度の事業計画及び予算を決定した。

昭和46年度事業計画

◆努力目標
よい主婦になる様に心がけ楽しい家庭を作る様に努力しましょう。

◆実践目標

▽教養部
・婦人講座に出席して婦人としての教養を高めましょう
・愛の一声運動に力を入れましょう。

▽厚生部
・環境衛生に力を入れ、ゴミのない地域にしましょう。

▽生産部
・賢い消費者になるために正しい知識を身につけましょう。

◆特別継続事業
・貸衣裳の進展につとめる。

◆継続事業
・生活の簡素化に努力しましょう。
・明るい選挙推進に協力しましょう。

昭和46年度予算

収入
繰越金　六七、一五六
会費　二二、六五〇
（一五一人―一人年一五〇円）
事業収益　八〇、〇〇〇
合計　一六九、八〇六

支出
会議費　三〇、〇〇〇
事業費　七〇、〇〇〇
事務費　五、〇〇〇
負担金　七、〇〇〇
交際費　五、〇〇〇
雑費　五二、八〇六
合計　一六九、八〇六

昭和45年度特別会計
（花嫁衣裳）
繰越金　二一七、四六三。
収益金　三〇〇、四〇五。
計　五一七、八六八。
支出　二〇〇、一三五。
残高　三一七、七三三。

文集

わこうど

発行

大熊町青年学級では、この程文集「わこうど」を発行した。発行者は学級広報委員会。夢、春、心の窓、孤独、人生独り言、若さとは、男の美、恋、私達の未来、束縛、考えること、旅情、人生の敵、威厳、学級運営など、現代若人の希望と悩みが、すなおに発表されている。